



少林寺拳法創始70周年記念式典

2月24日、東京プリンスホテルで少林寺拳法創始70周年記念レセプションが盛大に開催され、宮城県から理事長と教区长(鎌田道院長)が出席致しました。全国より、本山役員を始め理事長・教区长そして各県



2018.03.05 仙台杜都道院での雑祭

連の会長等、430名にもものぼるレセプションとなりました。

第一部として「創始70周年記念映像上映と組織としてお世話になった皆様への感謝状の贈呈」、第二部として「カンツォーネとオペラの調べ」、第三部として「会食と歓談」でした。多くの方々との交流を深めることが出来、80周年に向けてのエネルギーをいただいたレセプションでした。

少林寺拳法会員更新時期

3月は、個人会員の更新時期です。年会費7000円(半期:3500円)ですので手続きと納入をお願いします。不明な点がございましたら道院長にお尋ね下さい。また、手続きについては道院長が代行致しますので、必要な方は申し出て下さい。

道院卒業祝いを開催します。

2018年3月26日(月)古城コミセン和室)に仙台杜都道院の三塚悠蓮拳士の卒業祝い、27日(火)塩竈道院研修室)に塩竈道院の松浦聖十郎拳士・瀬戸琉輝矢拳士・安藤翼拳士・早川佳津摩拳士の卒業祝いをそれぞれの会場で開催します。皆さんで卒業を祝いたいと思いますので多数の参加をお願い致します。

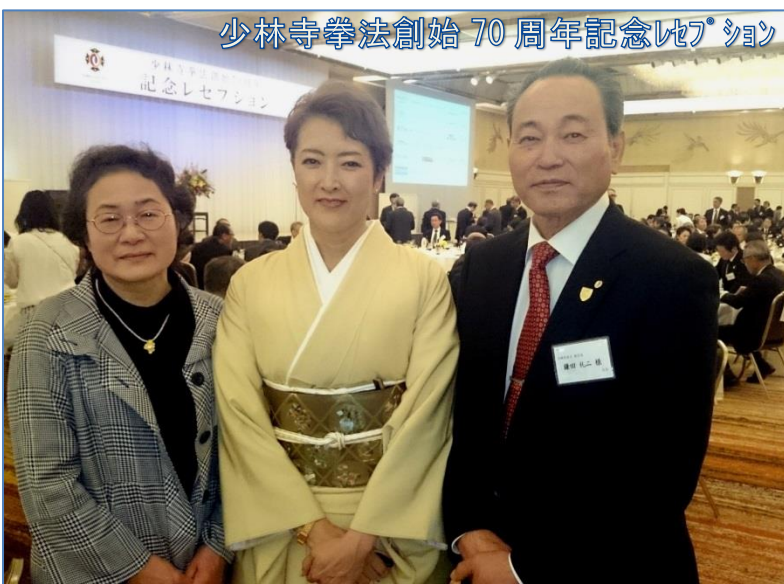
宗由貴 総裁メッセージ

2018年1月23日発信

少林寺拳法の指導者が超少子高齢化社会の大きな力となる

2018年の幕開け、四国の少林寺拳法総本部では金剛禪総本山少林寺の新春法会と(一般財団法人)少林寺拳法連盟の鏡開きが行われました。

全国から大勢の指導者や拳士が集い、最後は晴天の境内に集まり鏡割りや餅つき、



今後の予定

- ◎3月18日(日) 9:30から 審判講習会(青葉体育館)
- ◎3月23日(金) 18:00から 塩竈教区 昇級試験(塩竈道院専有道場)
- ◎3月26日(月) 18:30から 杜都道院 卒業祝い(古城コミュニティーセンター和室)
- ◎3月27日(火) 18:30から 塩竈道院 卒業祝い(塩竈道院専有道場研修室)

そしてぜんざいや甘酒、しっぽくうどなど振舞われました。

この新年最初の行事では、毎年指導者の勤続表彰が行われます。創始71年目を迎える組織ですから、長年元気で先頭に立っている指導者の勤続年数は、なんと55年を超える人もいます。ご夫妻やご一家で表彰式に臨まれる方々もたくさんいらっしゃいました。

少林寺拳法は、営業成績を競うフランチヤイズではなく、それぞれが仕事を持ちながら非営利で指導者を務めるわけですから、何十年も継続することは太い志と人づくりに対する熱い熱い情熱がなければできないものではありません。

2025年問題といわれる、人類が経験したことのない『超、超少子高齢化社会』。3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上となります。この超、超少子高齢化は当然のこと突然やってくるわけではありません。東京オリンピックの年2025年には、女性の2人に1人が50歳以上になるといわれています。あと20年近くは、出産可能な年齢の女性が増えないので、少子化の波は収まりません。

人類初経験となる社会とは、いったいどんな社会なのでしょう。



東京プリンスホテル

かつての日本でいえば1950年代や1970年代、また今でいえば東南アジア地域のように、一人の高齢者を大勢で支えられるほど、子供や若者の多い社会があります。

例えて言うとな神輿の上に乗る1人を何10人という大人数で担ぎ持ち上げる社会が健全なバランスの取れた社会だとします。日本も1970年代の神輿時代から、1980年代の10人前後で1人を持ち上げる胴上げ時代を経て、2000年に入るとそこから一気に3人が1人を担ぐ騎馬戦型になり、2020年には1人が1人を担ぐおんぶ型になるのです。

核家族が進み、そうでなくても三世代間の家族のコミュニケーションが難しいなかで、インターネットの普及により、人との直接的コミュニケーションより個人でネット空間を使い全てを処理するという傾向が強くなっていることから、親子間のコミュニケーションもなかなか難しいと感じている人も多いようです。高齢者の中には、気がついたら一週間誰とも話していない・・・などと孤独感の増す日々を送っている人も増えています。

何でもいから人に構っても良かったくて事件を起こす人も



いたり、このままでは社会の闇は深くなるばかりです。

冒頭でも触れましたが、そんな現代の日本社会において、60歳になっても70歳になっても、また80歳になっても子供から中高年までの多くの仲間と共に、イキイキと活動している少林寺拳法の指導者が全国にいるということは、人類初の難しい社会を乗り越えるための力になれるのではないかと考えています。

戦後の日本と同じように、人と人が助け合っていかなければ日本の将来はありません。今こそ、「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」という少林寺拳法の人づくりが、日本社会を支えます。